

産業生活常任委員会

(平成28年 8 月 23 日)

○ 石川善己委員長

それでは、所管事務調査を開始したいと思います。

インターネット中継をお願いします。

それでは、本日、まず、休会中の所管事務調査としまして、市民の方からのご意見でいただきましたJR四日市駅周辺の活性化についてを取り扱いと思います。所管事務調査の終了後、7月15日に開催されました議会報告会でいただいたご意見についての確認と整理をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。その後、競輪場を5時半着という予定で、競輪場の視察を行いたいと思っておりますので、ご協力のほうをよろしく願いいたします。

なお、先ほど申し上げたとおり、本日のテーマについては、市民の方からのご意見で頂戴をしています。もともとは公開討論をというようなことでご意見を書いていただきましたが、現実的にそこまでは難しいと思いますので、委員会の中でこれまでの経緯、現状までの報告をいただいて、その後、質疑と、そして、委員の方々からのご意見があれば、それをということさせていただきたいと思います。

なお、この案件については、いろいろと複雑に他部局にわたる面があります。商工農水部さんのほうで対応はしていただいておりますが、ケースによっては都市整備部、あるいは政策推進部も絡んでくるところもございます。資料のほうにも他部局の資料も手配をいただいておりますが、所管部局名を入れさせていただいたりというところもございますので、その辺も踏まえていただいて、なかなか答弁をしていただきにくい、他部局にわたるところもございますので、そのあたりもご理解をいただいた上で所管事務調査を行わせていただければと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

それでは、JR四日市駅周辺の活性化につきまして取り扱ってまいりたいと思います。

部長よりご挨拶をいただきたいと思います。お願いします。

○ 須藤商工農水部長

商工農水部長の須藤でございます。

本日は所管事務調査ということで取り上げていただきまして、ありがとうございます。

委員長、副委員長と調整の上、資料のほうを取りまとめさせていただきました。現状、

あるいは過去の状況というようなところを中心にまとめさせていただいております。また
いろんなご意見を頂戴して、今後の取り組みの参考にさせていただきたいというふう
に存じておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、担当課長のほうから資料の説明をさせていただきます。

○ 森商工農水部参事兼商工課長

商工課の森でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

お手元に配付をさせていただいております資料でございますけれども、J R 四日市駅周
辺の状況とデータについてまとめております。冒頭、委員長のほうからもご紹介がござ
いましたけれども、6 ページ以降につきましては、公共交通など都市整備部所管となつてお
りますけれども、あわせて参考資料として添付をさせていただいておりますので、どうぞ
よろしくお願いをいたします。

では、まず、1 ページのほうをごらんください。

まず、人口現状についての整理ということで、全市、市全域と周辺市街地、そして、こ
の資料では、J R 四日市駅周辺を――右肩に対象エリアを仮定して書いてございませ
けれども――この町名のところを J R 四日市駅周辺ということにして、平成17年から平成28年
の推移をグラフにまとめております。

まず、左上の全市、市全域では、平成23年をピークに人口は減少に転じておりますけれ
ども、28年の31万2115人、こちらを23年度比で見ますと0.7%の減にとどまっております。
しかしながら、生産年齢人口は平成17年から既に減少傾向であることがわかります。

また、左下の中心市街地でも全市と同様、平成23年をピークに減少に転じておりますが、
23年度比較でいきますと2.8%の減となりまして、減少率は全市に比べて高いというこ
とがわかります。一方、ここでは生産年齢人口も平成23年度までは増加をしておりました。

次に、右上の J R 四日市駅周辺でございますが、こちらでは既に平成19年をピークに減
少に転じておりまして、平成19年度と28年度を比較しますと7.2%の減と、減少率もかな
り高いことがわかります。一方、65歳以上の人口を見ますと1609人ということで、平成17
年以降で過去最高となっておりますということがわかります。

その65歳以上の人口割合というのを折れ線グラフに右下でしておりますが、J R 四日市
駅周辺が全市に比べまして6ポイントほど高く、高齢化が進んでおるといことがよくわ
かるところでございます。

次、めくっていただきまして、2ページでございますが、歩行者流量調査の結果をまとめてございます。

紙の下のほうに、国道1号より西の13カ所と本町の調査地点を丸で地図上で示してございます。また、上段には、松坂屋が撤退した平成13年と、それから、平成17年から平成27年の1日当たりの歩行者の合計の推移をまとめております。単位が漏れておりますが、単位は人になっております。

左のグラフでは13カ所の合計ですけれども、ピーク時の平成13年当時に現状は戻りつつありますけれども、まだ平成13年度比で平日では7.4%、休日では12.9%少ないといった状況でございます。

また、右のグラフの本町では、休日の歩行者が平日の半数に落ち込むということが顕著にあらわれております。

次に、3ページをごらんください。

空き店舗の推移につきまして、まず、中心市街地エリアについては、平成17年から平成27年について、営業中の店舗数と空き店舗の推移についてまとめております。また、下段では、平成22年から平成27年のJ R四日市駅周辺——いわゆる沖の島町発展会、本町通り商店街振興組合、そして新丁通り発展会といったところが対象になりますが——こちらの営業中の店舗数と空き店舗数の推移をまとめております。

中心市街地のほうでは、ここ3年ほど、営業中店舗が増加をしておるところでございますが、J R四日市駅周辺では減少しているということがわかります。

また、空き店舗率を折れ線グラフで示してございますけれども、中心市街地で平成27年の11.6%に対し、J R四日市駅周辺は25.9%と2倍以上にもなっておるともわかります。

次に、4ページをごらんください。

活性化とにぎわいづくりの取り組みということでまとめております。

まず、四日の市の開催ということで、毎月4日にJ R四日市駅前の広場でマーケットが開催されております。民間の力でやられておりますけれども、SNSだけで広がりを見せているというようなことで、特徴あるイベントだと思っております。

また、左下のほうには、市の事業の空き店舗の活用支援事業を活用した出店実績ということで、新丁通り発展会と本町通り商店街のほうで2店舗、23年と26年に空き店舗の活用の実績がございました。

また、右上のイベントですが、商店街魅力アップイベントということで、市の補助金の活用もいただきまして、本町通り商店街振興組合と四日市商業高校のコラボによりまして、仮想通貨を用いた小学生による市場構造を創造して、小学生の子供たちに社会勉強をしていただくといったイベントが実施されております。

また、右下ですが、秋のみなとフェスタ2015ということで、四日市港管理組合が事務局となった四日市まちあるき実行委員会の主催によりまして、昨年11月、近鉄のハイキングイベントと同時開催ということで、末広橋梁と旧港のガイドツアーでありますとか、近鉄四日市駅から稲葉翁記念公園までのスタンプラリーなどが開催されたところでございます。

次、めくっていただきますと5ページになりますが、左下のほう、本町通り商店街お買い物ツアーということで、NPO法人の主催によりまして、市内の団地在住の高年齢者等を本町通り商店街に案内して、買い物等を楽しんでいただくようなイベントが毎月されております。

また、右側には、JR四日市駅周辺には大四日市まつりに出演しているような山車も保存がされておまして、本町通り商店街で昭和63年に復元されました岩戸山でありますとか、一昨年、七つ屋町から譲られた鯨船、そして、右の写真になりますが、昭和27年に7代目玉屋庄兵衛によってからくり人形を復活した新丁の菅公という山車もございます。

次に、めくっていただきまして、6ページになります。

ここからが都市整備部の所管の資料となりますが、まず、公共交通の状況でございます。

鉄道の運行本数というのがまずまとめてございますけれども、名古屋方面だけを比較しても、近鉄が181本に対してJRが67本という差がついております。

また、左下の鉄道利用者の状況ということで、近鉄四日市駅、JR四日市駅の1日の平均乗車人数の推移をまとめておりますが、新しい平成26年と一番古い平成13年を比較いたしましても、近鉄が9.4%の減、JRが1.3%の増と経年変化は余りございませんが、JRは近鉄の10分の1ぐらいの人数になっておるといったところでございます。

また、右側に年間乗客数というのをまとめておりますが、近鉄四日市駅は平成26年で775万9000人と平成19年をピークに減少に転じておまして、今は少しずつ戻しているといった状況です。

次に、下のJR四日市駅は、平成26年に85万7000人ということで、逆に、平成18年を底に微増をしておるといったところで、普通乗客が平成18年比0.7%減に対し、定期の乗客が10.7%ふえておるということで、この原因の推測には至っておりませんが、定期

乗客がかなりふえておるといところでございます。

次の7ページがバス利用者の状況ということで、右上に中心市街地のバス路線図、左上に近鉄四日市駅前、右下にJR四日市駅前のバス停の状況をあらわしております。

近鉄は32本の路線バスや高速バスの発着場があるのに対しまして、JRは平日10本の路線バス、土日、祝日ですと5本といったところで、鉄道とともに、この場が公共交通の結節点としてハブ機能を果たしているとはJRのほうは若干言いがたいといところでございます。

左下のところに1日の平均乗客数で、近鉄四日市駅前は、平成26年度の計で6507人なんですが、平成22年度と比べて0.2%の増といところでございます。

また、右側のJR四日市駅前の26年度計は317人になりますが、こちらは22年度と比較しますと19.5%減少しておるといことがわかります。

次の8ページでございますが、公的施設及び最近の状況について表示をしております。

JR四日市駅周辺では、駅のバリアフリー化工事のほか、浜田踏切の改良、案内表示看板の設置など、また、一部民間マンションの建設が行われているようです。

表示にはございませんけれども、JR四日市駅周辺のほうには、日本生命、明治安田生命、東邦ガス、CTYなど、大きな事務所もございまして、ビズ・スクエアよっかいちといったインキュベーションのオフィスもございまして、また、金融機関、郵便局、ハローワーク、病院なども点在をしておるといところでございます。

次、めくっていただきまして、9ページになります。

JR四日市駅周辺の整備状況についてまとめております。

まず、JR四日市駅のバリアフリー化工事ということで、エレベーター、多機能トイレ、スロープ、音声ガイドつき案内板といったものの整備が今年の3月に完成をしております。ちなみに、駅舎そのものは1960年、昭和35年5月オープンの建物で、かなり老朽化をしておるといところでございます。

左下が浜田踏切の事業ということで、JR四日市駅に隣接します北側の浜田踏切の歩道部分をことし5月に改良をしております。

また、右側には、JR四日市駅を拠点に四日市港方面への回遊性を向上させるための情報案内看板の整備が進んでおります。

次に、めくっていただきまして、10ページになります。

老朽化が著しく課題となっております三和商店街の状況について、少しまとめてみまし

た。

右側にございますように、建物としては8棟、59軒ございまして、現状、居宅として利用されておるのが7軒、営業中の飲食店が9軒、倉庫としての利用が5軒ございます。一方、危険措置の表示箇所として15カ所が表示されておる状況でございます。

今後におきましても、建物崩落等の連絡が入った際には、現地確認の上、危険防止措置を行いまして、権利者等へ連絡し、対応していくといった状況でございます。

最後に、11ページの9番になりますが、昭和62年から平成14年ごろに議論されておりましたJR四日市駅周辺整備事業の経緯でございます。

昭和62年にJR四日市駅周辺活性化問題検討会が発足されるなど、JR四日市駅周辺の活性化につきまして検討が始められ、平成2年には貨物ヤードの移転、鉄道の連続立体化といった事業化に向けた取り組みが始まりました。

②のところにございます。貨物ヤードの移転先については、平成6年に霞ヶ浦緑地西隣の羽津古新田とする旨の表明がありまして、右側の年表のところにあります。平成8年にはJR四日市駅周辺鉄道高架化調査検討会が発足され、平成10年にはみなと・まち市民会議も設置をされております。平成8年の鉄道事業者との協議では線路の配置計画の課題等が抽出されるとともに、平成10年の市民会議からは、多額の事業費が必要ではあるが、その事業効果は事業費を大幅に上回ることが予想され、長期的な視点で事業内容を十分に検討することが必要であるといった旨の提言を受けております。しかしながら、関係機関等の調整に時間を要しまして、事業スケジュールを明確にできない状況になったという経緯がございます。

その後、平成14年8月の議員説明会におきまして、バブル崩壊以降の景気の長期低迷などにより、社会経済情勢はより厳しい状況となっていると。本市におきましても、財政状況の悪化や市町村合併問題等、多くの課題を抱えており、今の時期に本事業を推進することは困難である。長期的な視点を持って取り組んでいかざるを得ない状況であり、本事業に関する調査、協議については、この時点では一時休止するといった旨の報告をしたところでございます。

最後に、12ページ、13ページに、当時――20年近く前になるころの平成10年ごろ――の計画のパンフレットを少し引っ張り出しまして、コピーをつけさせていただきました。

説明は以上でございます。

○ 石川善己委員長

ありがとうございました。

説明についてはお聞き及びのとおりです。

ご質疑、あるいはご意見等ございましたら、挙手の上、ご発言ください。

○ 加納康樹委員

ご説明ありがとうございました。

商工農水部に関連するところというところで、いろんなにぎわいをつくる取り組み云々というのに関連して、少し脱線した質問をさせていただくんですが関連するということで、いろんなうわさ話は間接的に聞いているんですけど、ことしは何でスワビは開催されなくなったんですか。

○ 森商工農水部参事兼商工課長

これは私どもの聞くとところによるとというところなんですが、やっぱり採算性が合わないとというのが一番大きな原因というふうに聞いております。

○ 加納康樹委員

なるほどね。主催者の採算性と。聞いたところによると、どうしても、ちゃんとお店を構えていらっしゃるところからも余りよろしくないようなご意見を聞いたというのもなくはないんですが、真偽のほどはわかりにくいとは思いますが、理由としては採算性ですか、聞いているのは。

○ 森商工農水部参事兼商工課長

私どもの担当のほうに主催者側からお伺いしておるのは、採算性というふうに聞いております。確かに、やり方として、公園の中にお客様を引っ張り込むわけですから、お客さんの取り合いというのはあるのかなというふうに個人的には思いますが、声としては伺っておりません。

○ 加納康樹委員

済みません、まちのにぎわいということで少しやや脱線で聞きました。

○ 石川善己委員長

他にございませんか。ご質疑、ご意見ございませんでしょうか。

非常に突っ込みにくい点もあろうかとは思いますが、ある意味、部局をまたいで、質疑はお答えいただけなくても、共通認識としてここでご意見を出していただいて、それを複数の部局で共通認識として持っていただくという意味合いでは、他部局に係るところでもご意見を出していただいていいのかなというふうには思っておりますので。余り深く入り込むとご答弁はいただけないにしろ、記録として残させていただいて、それを共通認識としてお持ちいただくような形でも考えておりますので、ご意見ございましたら、お願いをしたいと思います。

○ 竹野兼主委員

資料の本町商店街お買い物ツアーという——NPO法人UDほっとねっとさんというのが、毎月26日、いろんなイベントをやられているという——商店街の感謝デー、これは毎月の26日、平日のところでやられているみたいに、資料を見て初めて知ったことなんですけれど、この辺をやるときとやらないときというので、やっぱり人のにぎわいというのは大きいものなのかどうなのかというのを、例えば、行政としてはそういうことは確認されておられますか。

○ 森商工農水部参事兼商工課長

この行事の開催時には、担当のほう折に触れて現場に行くようにしておりますので、状況もある程度確認をしておるのですが、団地の方々を呼んできてその分のにぎわいというのは当然あるんですが、それに伴う波及効果でのにぎわいというところまでには至っていない状況だと思います。

いろいろと課題もあって、いわゆる一つのにぎわいもそうですし、買い物弱者と言われるような高齢者の方々に買い物を経験していただくという方向性もあるかと思うんですが、本当のと言うと変ですけどもなかなか1人で買い物に行けない人たちが来ているというよりはイベント的に来ている方が多くて、結局、2回ぐらい来ると、もう飽きちゃって来なくなるというようなことも、参加者側にとっては課題として出てきておると。商店街側としては、結局、遠方から来ていただくものですから、継続したお客様に、定着したお客

様にはなり得ないものですから、この辺は一つの課題として、今、新たな次の展開にできないかというようなところの、この方々の会議にうちの職員も時にはお邪魔をして相談に乗ったりというような形で取り組んでおります。

○ 竹野兼主委員

ありがとうございました。

結局、にぎわいというと、やっぱり商店街を基本にするという話になるんですけど、今の時代の商店街は、欲しいものがその商店街というか、その地域のところに物があるか。それがあれば、当然、自然と人は寄ってくる、集まってくるはずなんですけれど、結局、そういうものが今の現状としてない状況かなと。

特にJR四日市なんかは、まちかど博物館などを開催してみたりとかというので、もともと自分が子供のころ、あそこにレストランでこだまとかという、四日市でもおいしい料理を食べさせてくれるところがあったときには、子供のときにも連れていってもらったなみたいな、そういうところがあれば行ってみたいと思うけど、今は全くない。東海ツアーという旅行の関係のがあったんやけれど、それも今どういいうわけか移転してしまった。JRのところに行くのに、例えば、行くとしたら、たまたまJRの切符を買いに行こうかなと思って行く。そうすると、駐車場はないし、変にとめていくと、警察が回ってきて、当然、駐車違反でつかまっておるのを見たりもするし、200円がもったいないと思うのか思わんのかわからんけれど、そのものがないことで、結局、ほかのところを人を集められる可能性があったとしても、なかなか集められない状況にあたりもするのかな。

ただ、それをそうしたら行政が助けてあげられるかということ、民間の話なので、自分たちも稼業としてやっていた部分については、行政には何も助けてもらうこともできやし、みずからの力でやるしかないという状況なんやけれど、そうしたら、この部分を行政が助けられるというものって、そういう意味合いのところをいうと、今、その前の活性化、にぎわいづくりの取り組みの中で2店舗、空き店舗の活用をした店舗をそうやって出されたという実績もあるけれども、それを全体にやろうというところへなかなかかなりづらいというか、なれないよね。そこを何としてでも、例えば、行政としてはお金を放り込んでやろうかというような考え方というのは今あるのかなのか、それをまず教えてください。

○ 森商工農水部参事兼商工課長

まず、結論からいいますと、行政として今ここに多額の経費を突っ込んで何か新しい企画をという案は出てないです。ただ、必要性というのは当然感じながらのところなんです。民間もいろいろとご紹介がありましたけれども、例えば4ページの活性化、にぎわいづくりの取り組みのところで、現状、JR四日市駅前のちょうど前の広場のところに——これは四日市出身で東京在住の方なんです、その方が中心となって——四日の市というのを開催しております、かなり定着をしてきておるといふところもございます。

それから、テナントミックスといいますか、商店街が活性化していくためにやっぱりいろんな欲しいものがそのところにあるということが大事なんです、本町通りというのは結構不思議なところで、従来の魚屋さんとか八百屋さんとかがしっかり残っておるおもしろみのあるところなんです。少しご紹介もありましたが、まちかど博物館というのも今もあって、お祭り関係、大入道関係のものばかりを収集したところも個人の方でやっていただいておりますという形で、民間の方でいろいろと取り組んでいただいておりますので、私どものほうとしては、そういった方々の後押しといいますか、支援といいますか、なかなかお金は出ていないですけどもいろんな意味での支援をしていきたいというふうに考えております。

○ 竹野兼主委員

答弁も、費用をかけられないというのは当然のことやと思うんですけど、今言われたみたいに、SNSでこうやって四日の市がと、それを見られない人たちもいるわけですから、例えば、1年に1回は必ずそういうような、紙の媒体でしか見られないようなところ、広報よっかいちなんかのところで、1年に1回ずつ、こういうものが行われているよみたいなものを見る機会を少しでもふやすというような取り組みはあってもいいんじゃないかな。

あと、これは多分、商店街の人たちが頑張っけてやってもらわなあかんのかもしれないんですけど、JRのところのお店に何か有名な例えば——これは僕もどこかわからないんですけど、12月のクリスマスするときになるとそこにローストチキン、そういうものを売っている——鳥屋さんとか、お肉屋さんみたいなところがある。場所も全然知らなくてよう行かんのやけど、例えば、そういうようなところは、みんな知っているとは思うんやけれど、どこにあるんかなと、そういう話を聞くと行ってみたいなというように思いもあるかもしれんし、そういう意味合いのところ、さっき言った1年に1回、こういうお店を取り上げてあげられる。例えば、CTYの部分のところで、JR活性化の部分でフィルム

なんかをつくるどころでのサポート体制を考えると、そんなような、お金は余りかけられやんけれど、それによって大きなプラスになるか、少しでもプラスになるようなという、細かいことやったりやるしかないのかなというふうに思っていますので、ぜひともそういう意味合いを考慮してもらって、できる限り、ちっちゃなことからはじめやな仕方がないという意味合いで、これが長いこと続いてもなかなかうまくいっていないのも現状ですけど、やめてしまったらそれで終わりなので。

あと、三和商店街のところで、非常に確かに古いところがあるんですけど、やられているところもありますよね。これ、お店としておもしろいなって。たまにJRのほうを向いてお昼のランチに行くときに、ここ、おいしくてええのになって思うけれど、確かにそうやって見てみると、市から見ると、やっぱり耐震も含めた安全性という部分のところが非常に困るところなのかなというのを、写真を見せてもらおうと改めて思うところで、これについては、今書いてある権利者というところの部分がやっぱり大きなハードルになっておるんですよね。それで、23年度以降も説明会10回開催、家屋対策会議3回と、その部分のところで、今28年度なので23年度以降に3回だったら、まだもうちょっと続けてもらわなあかんのかなと思いますけど、その辺なんかはどんなふうに思われているところなんですかね。それだけ教えていただいて、終わりたいと思います。

○ 森商工農水部参事兼商工課長

まず、冒頭のいろんなものの周知、PRというのにつきましては、市のさまざまなツールを使って積極的に支援をしていきたいというふうに思います。

それから、三和商店街に関しましては、正直申し上げまして、まだかかわっていなかったものですから、都市整備部のほうで取り組み……。

○ 竹野兼主委員

ああ、そうか。ここはあかんのやな。

○ 森商工農水部参事兼商工課長

あかんというわけではないんですけど、取り組んでおる状況でございまして、実態をつまびらかに把握しておるわけではございませんけれども、そういった所有者の方々との連絡体制がとれるような形で取り組みは進んでおるというふうに聞いております。

○ 竹野兼主委員

ありがとうございました。

○ 小林博次委員

そもそも商工農水部でJR周辺の活性化をやるうかって、そんなのは無理なことで、何でもこんな無理なことかということ、例えば本町の商店街があるわね。その向こうが新丁やね。その向こうが新丁1なんや。子供は1人もおらん、75歳以上が7割ぐらいや。もう購買力もあらん。だから、これ、四日市の都市問題なんやわね。このまちをどうするか。津波が来るなんてあおりたくったら、ちょっと元気のいい人も引っ越して別のところに行っていたという感じで、ただでも空き家になるのに、空き家まるけや。

そうすると、このまち、公共としてはどうするのというのがあって、その辺できちっと積み木を積み直さんと、商店街だけれどもととっても、片一方で津波やなんやで潮を引かせておいて、片一方でと、それ自体が無理なんや。

例えば、人がやってくる築港病院なんかでも移転していった。人が寄るところが順番に移転して、何かやろうといたって、簡単にはいかん。だから、商店も一つ減り二つ減り、そうすると、買いたい人の立場からいくと、例えば服かなんかをつくるのにして、行ったら、ボタンが売っておらんわといたら、ボタンをどこか商店街へ買いに行かんらん。これをするのに糸がないわって糸が欲しいのに、またそれをどこかへ行かんらん。そうすると、商店が抜けることで商店街になりにくい。商店が散在することはわかった。一生懸命に努力すると、努力したかいは、効果は出ているというのもわかった。だけど、やっぱりもうちょっと商業政策なら商業政策を商工農水部のほうで打ち出してくれやんと、どうにもならん。

都市整備部にしたって、いまだに三和商店街、危ないのがわかっておって、条例もつくらんわ、取り壊しもせんわ。金でもいただくかしたるのか聞いておるやろうけど、どんな魂胆を持っておる人か知らんけど、仲間を集めて、今度、あなた方が出かけて行って、ここを再開発しようかという話をしてもまとまらん。金のある人がディベロッパーになってやればやれやんことはないやろうけど、三和商店街を触るよりは、JRの駅舎の建てかえ、ここから始めたほうがいいのかないかなというふうに思う。

市のほうは、この庁舎東に図書館を建ててくれるということやから、近鉄とJRのちょ

うど真ん中で、できれば再開発ビルを起点にしたL R T、新しい交通システムが導入されていくと——あすなろう鉄道もそう何年ももつとは思えやんけれども、それから、近鉄湯の山線もいつまでもつのかなというのが世間で言われる話やわね——そういうようなもろもろの新しい仕組みの中で拾える、こんなことがあるかと思うんやね。

民間のほうで今話があるのは、駅舎の西側に市の土地とJ Rの土地があるから、何とかここで再開発ビルを建てられやんやろうかと。1階部分は従来どおりバス停、タクシー乗り場、それから、できれば一般の人の駐車場、これもつくっていく必要があるのかなというふうに思う。そこへL R Tの始発、ここを拠点にする。どうも幾つかの例えばホテルだとかスーパーだとか、できるんやったらそこへ入れてという申し入れは既に今日来ておるみたいで、だから、そういう民間の力をかりる。

この前、市長がJ R本社へ行って、社長と懇談を2回ぐらいしてもらって、市がおやりになるんなら、駅舎の建てかえ、ええような感じの、ちらっとそういうニュアンスの——はっきりええとは確約してもらってないんやけど——そういう話を聞いた。やろうとするなら、市はようやらんなら、民間でやれるわけやから、そういう話をまとめていってくれる。そこで終わってしまうと、まちづくりと関係なくなってしまうので、そこだけになるので、だから、今度は中央通りを築港のほうを向いていく、国道23号を通り越して接続する。できれば、旧港もしくは千歳町の運河、ここにセントレア行きの船の離発着場をつくる。その手前にはホテルをつくる。そういう構想がまとまってくると、格安航空がセントレアへどんどん入ってくる。それも四日市側に取り込んでいくことができる。セントレアって、飛行場って、巨大な百貨店なんやわね、今。最大の百貨店やと思うんやけど、それを四日市に取り込む、こういうことをやっぱりもう一回きちっと対応せんとあかんかなという気持ちがあるわね。民間ではそんな話が既に出ていて、あと、行政側が、じゃ、後押ししようかという腹があれば、決まって動いていく、こんなことではないのかなと。

そういうことと、それと、公共施設として、例えば、地域の高齢者もいっぱいおったり、よう表へ行かんわというような人たちもおみえになりますから、商店街からその人たちを迎えてくるか、あるいは、商店街から車を出して売りに行ってあげるか。それと、公共施設として老人ホーム、そういうものが建てられると、それを起爆剤に、周囲にまた人が戻ってくる。

津波が危ないよばかり言ってもらわんと、危なかったら、危なくないような対策を立ててもらおう。そうすると、そこへまた新しい世代の人たちが入ってくる。例えば、堤防の朝

市を建て替えたなら、あそこへ入れてくれって、はみ出しておる人が何人か——今、肉屋さんも入れてくれとかという話があったけど——まだ中へ入っていない。全部そろわんとあかんけど、でも、やってくる人は若い人がやっぱり来る。今までは作っておるのが年寄りで、売っておるのが年寄りで、買うのが年寄りという、放っておいたらなくなってしまう。建てかえる前は数年でなくなるかと、そういう話があった。でも、建てかえたとたんに、若い人たちが売る側に参加、つくる側と売る側と、それから買う側に参加し始めた。それで元気が出てきたと思うんやね。

だから、JRなんかでも三和商店街でも、あるいはその隣でもJRでもええんですけれども、どこでもええから、建てかえが始まると、波及効果があらわれる。だから、何か動かそうとすると、やっぱり行政側が少し旗を振ってやらんと、なかなか滑り出しが難しい。そういうふうにしたので、だから、そこだけ一生懸命やろうかといってもなかなか難しいので、あなたたちが潮を引かせてやったわけやから、もう一回まちづくり、きちっと計画を立てて、潮が満ちるような感じとあわせて、建物を新しく建てかえたり、そういうことをすると、だんだん売れるようになる。だから、そんなことは、よそでそういう成功例がいっぱいあるんやけど、そんなようなことも参考にさせていただいて、対策を練ってほしいなど。

だから、あなたのところだけと違って、市全体でどうするのという話が出てこない、なかなか活性化って難しい。一つか二つの空き家を何とかせいという話なら十分なんやけど、そんな話では、お客をふやしたり、それから買い物難民対策をやったり、そんなことはできへんから、だから、健康福祉部も都市整備部も商工農水部もタイアップしてやっぱりやる。場合によっては県も巻き込んで、JRも巻き込んでやっていく、そんなことがないと、なかなか難しいのと違うんかなと、こんなふうに思っています。

何か感想があれば。

○ 須藤商工農水部長

小林委員からご指摘があった点、ごもっともなところも多くあるというふうに思っております。特に、商業的な活性化、物販なんかをこれから集積させようというのは、かなり無理があるというふうに私どもも感じております。まちの中心市街地の人口が減少していく中で需要も減退している。あるいは、そういう商業的な物販の入手できるような場所もだんだん拡散して拡大していっているという状況の中で、JR四日市駅周辺の地域で、そ

のような商業的な活性化を求めるといのは無理があるだろうといのは、私ども、同じ
思いでございます。

そのような中で、いかにインフラの整備された地域の有効活用をしていくかというのが
課題でございまして、今般、図書館の立地というようなことの議論もございしますが、駅東
のできるだけJRに近いあたりでそのような立地をするということが、周辺地域への波及
効果というようなことでポテンシャルを上げてくるという中で新たな民間投資も誘発され
てくるというようなことも一つは期待しておるところでございます。

また、都心居住という形で、マンション等の立地も東のほうでも誘発していき、人口も
ふえるということもございしますが、ポテンシャルを上げていくというふうなことで、さら
に民間の投資というようなことも誘発していく必要があるんだろうというふうに思ってお
ります。そのようなことと、行政のほうのプロジェクト、取り組みもあわせてやっていく
必要があるのかなというふうに思っております。

きょうの資料の後半につけさせていただいておる、JR四日市駅周辺のいろんな開発事
業がかつてあったわけでございます。その辺のコンセプトは、今、小林委員がおっしゃっ
たような、港を向いて都市人口を伸ばして、そこに新しい拠点をつくってというようなと
ころで、あるいは、近鉄四日市駅のほうからそちらを向いた新しい交通インフラを想定す
るようなことも当時考えておりました。そのようなことが、バブルの崩壊とかいろんな財
政的な問題で中止されておるわけではございますが、活性化のあり方の考え方としては、
そのようなことが今も変わらない考え方としてはあるのかなというふうに思っております。

以上でございます。

○ 小林博次委員

長くなる。ごめんね。

ここにつけてもらっておる11ページ以降の資料は、活性化はやめたという資料がついて
おるので、やめたのと違って、どうやるかやで、この資料は余り参考にしたくないんやけ
ど。だから、例えば、まちの真ん中を再区画整理したり、例えば、1軒のうちで車が3台
も何台もなると、土地が狭いもんで置けへんわけ、そこへ。それで、どこか空き家を借り
てやると。例えば3人おってみ、5000円ずつで1万5000円ぐらい駐車料が毎月余分に要る
わけや。それなら、新しいところを買ったほうが安いので、ここにおらん。そうすると、
市のほうの政策として、例えば立駐か、立駐でなくてもいいけど、そういうものの補助金

を出す。そうすると、よそへ行くよりそこで建てかえる。金のある人はええよ。2軒ぐらい、あるいは3軒ぐらい引っ越していくと、びっくりするわ、どえらいものが建っておるわけや。だから、需要はあるんやわね。どんなまちにするのかということを決めて政策誘導しないと、なかなか効果が上がらんかなと思ってるんやけど。

高齢化社会やから、土地が高いから、高齢化施設がないんやわね。その近くに自分たちが住んで、近くの高齢施設で面倒を見てもらえたら、引っ越していくことはないんやから、そういうさまざまな要因があると思うんやけど、そういうものをもう一回考えてもらいたいということと、それから、今度は商売の観点からいうと、このまちは何をやっても成功できる可能性が高いまちなのね。何を言っているかという、例えば、名古屋で店をしようと思うと、同じ種類の店がいっぱいあるわけや。成功するのかどうかってわからへんわけやな。よっぽど運がよないと成功できへん。でもここは、それしかなければ必ず成功できる、寄ってくるんやから。寄ってくるのに、駐車場がないわとか、ついでに何かお土産を買おうかと思うとないわって、これが実態やから、だからだめなので。そのあたり、かなり専門家を入れて次元の高い再開発構想を立てていただくと、おもしろいことになっていく可能性がある。でないと、まちがコンパクト化できない。この前、調整区域のうちを建てるのを認めてもらってありがたかったけど、今度はまちの真ん中にもう一回人が寄れるコンパクトシティに。だから、都市にとってどんな施設が要るのかということをもう一回考えてもらって配置する。市役所がやらんでもいいよ。民間でやればいいんやから、この土地にということだけは市のほうでやってやってくれやんと、前を向いて進まん。

ちょうどJR四日市駅の駅舎の建てかえと土地の有効活用ということが、まず移転できれば、そこへ入る人たちであいてくるところが出てくる。だから、三和商店街のほうも金をもらおうかと思ったって、その隣のほうが先に開発が進んでいくと、取り残される。でも、開発が隣に進めば、そっちのほうがまちにとってプラスになる。だから、あなた方はええんやけど、都市整備部がいつも言っておるのは、三和商店街でも、権利者はわかってるけど、上を使っておる権利者がわからんと。どこを歩いていったか、こんなくだらんこと、裁判所に行ったら、一発でできますよ、こんなの。半分は近鉄不動産が持っておるのやから、近鉄に補助金を出したときに、ちゃんとこのところもしますって条件をつければできることやないのという話をしたけど、何か日本語が通じなくて、ほったらかされた。こんなことがある。

それと、今ある身近な問題でいうと、本町プラザの駐車場、きょうも分厚い資料を送っ

てきておったから見たけど、何で利用されやんのかという理由が、一番大事な理由が書いていなかった。値下げしても利用者が減ったと書いてあったけど、あんなん、1台出すのに10分ずつかかってみ。みんな出すのに、待っておる時間のほうがあれしてきて、金がかかるで。ただにしてもらってもいらんと。だから、それ、やっぱり市がやったわけやから、市の責任で取りかえて、今、世間で使っている高速——そのころから使っておったのに、市は安かろう悪かろうで入札させたわけやで、そのときの調達の人たちの給料を半分にするのか、責任をとらすかなんかやって——に直さんとあかんと思うんやわ。それ、ここで言ってもしょうがないけど、こういう駐車場が使えるやんやないかと。だから、使えるようにせなあかんと。それが活性化の一步と違うのと。商店の前にとめておけば、巡回の人がやってきて、赤紙を張っていくんやないか。商売の邪魔しておるわけや。だから、もうちょつと考えてやらんと。

市がやることは、金を出さんでもできることはいっぱいあると思うんやけど、考えてやってください。要望。終わり。

○ 石川善己委員長

答弁いかがでしょう。できますか。

○ 須藤商工農水部長

中心市街地の活性化というのも、いろんな部局にまたがります。私どもとしては、そういう業としての商業の活性化ということを所管しておりますが、都市整備部、あるいはいろんな施設もございます。我々が音頭をとりながら、いろんな課題について対応してまいりたいというふうに考えております。

○ 石川善己委員長

お願いします。

他にご意見、ご質疑ございますか。

○ 荒木美幸委員

事業のストップから行政もすごく悩み苦しんでいる時代が続いているんだなということ
を改めて感じながらお話を聞いていたんですけれども、ただ、だけど、限られた予算の中

で前を向いていくしかないと思っているんですね。

その中で、一つは、市でやることもそうですけど、今、うまく国のメニューを使っていくことって大事だと思っています。ご存じだと思いますが、地方創生の予算、最初の予算は四日市は全部不採択だったと思います。その理由は何なのかって私も存じませんけれども、やはり一つは、いかに特色のある事業を打ち立てたかどうかというところが選択されるポイントだというふうにお聞きをしています。今、内閣府のホームページを見ますと、好事例がたくさん出ていまして、どういう事情が採択をされ、お金がついたのかというのがすごくわかるものが出ていますね。まちづくりもあります。地域活性化の小さい拠点をつくっていく事業とか、いろんなものが、商工につながっていくことがたくさんありますので、9月の2次に向けて何か取り組みをされていらっしゃるのかどうか、その辺を少しお聞きしたいと思います。

○ 森商工農水部参事兼商工課長

2次に向けての取り組みといいますか、いわゆる国の補助メニューを使うがために、補助メニューの精査でありますとか、私どものほうの新たな発想というふうなことで、今度、第3次推進計画に向かっていきますので、そういう意味で、今、各課のほうで——言葉は悪いですが、いわゆる玉出し——事業を出す作業を進めております。

○ 荒木美幸委員

ぜひアンテナを張っていただきたいなと思うんですね。2次に向けては、国のほうも、1次の募集では使い勝手が非常に悪かったということで反省もあり、少しハードルを下げているようです。ハードにも使えるような使い勝手がいいものになっているというのを聞きしておりますので、またそういったところの情報も収集しながら臨んでいただきたいですし、具体的には、先だって閣議決定でいろいろ出ていましたけれども、地域活性化に向けてということで非常に具体的な事例で恐縮なんですけれども、例えばということで、航空会社なんかでためたマイレージをマイナンバーのカードに移行させて、それを商店街で使える仕組みにしていくモデル事業をこれからやっていくという流れもあるようなので、いろんなものの仕組みをうまく使いながら、ぜひ活用できることはしていただきたいなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

○ 森商工農水部参事兼商工課長

どんな事業にも、その原資となるものが一番大事ですので、こういった財政難の折ですので、国のそういったメニューをしっかりと漏らすことなく確認をしていくようにしておりますけれども、今後もしっかりとやっていきたいと思えます。

また、冒頭ちょっとお叱りを受けたように、特色ある事業というのが私どもが出せなかったといった反省も踏まえて、それこそ職員力にかかわってきますので、その辺、十分勉強しながらやっていきたいと思えます。

○ 荒木美幸委員

ここは政策ともしっかりと連携していただきながら、いいものをつくっていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

○ 石川善己委員長

他にございますか。

○ 加納康樹委員

さっきの竹野さんのほうから話がありましたけど、四日の市に絡んで、あれに関して、別に行政がどうのこうのする必要は全くないとは思っています。竹野さんがおっしゃったように、年に1遍ぐらいの周知の足しもしてあげればいいのかと思っているんですが、あれだけのそこそこの成功を見ると、要は、JR四日市の駅前広場が意外とポテンシャルがあるんだなというふうにも思っています。ちょっと違うのかもしれませんが、私——部長もお会いしましたけど——毎年、花火大会に行くときはJRから行くようにしていて、当然、花火大会のときはJRもどえらい人が集まってえらいことになっておるということは、よっぽどのがあれば、みんな忘れ去っているわけじゃなくて、使えるJR四日市駅なのでというところで、四日の市さんあたりの成功事例を参考にして、四日市市としてもあそこの広場を活用して何かしませんかみたいな、そんなような売り出しってできないものなんでしょうか。

○ 森商工農水部参事兼商工課長

まず、スペースそのものが——冒頭、小林委員からもご紹介がありましたけれども——

四日市市の土地とJRの土地で半々になっておると。今、四日市をやっておるところはJR側なんですけど、その前にバスの停留所がありまして、その半々の土地を今、三重交通さん、三岐鉄道さんにお貸しをしておる。一部あいておる部分について、四日市公害と環境未来館の臨時のバス用の駐車場にしておるといような今の使用状況があるものですから、なかなか今新たに転換するといところについては課題があるといことと、四日市の場所についても、かなりやり始めの当時については、JR四日市駅の駅長さんに、市の職員も入りながら、ここの貸し出しといことに関してお願いをしてきた経緯がございます。今はといいますと、このにぎわいの状況について、かなり好意的にかかわっていただいておりますので、こういった状況の変化の中で、少し市としてここで何かができないかといような模索は始めていきたいといような段階です。

○ 加納康樹委員

ぜひ何か少しでもできればといところは期待をしたいと思っております。

それと、日常的にといところでいくと、JRさんとも絡める話になりますけど、JRさんがやっているウォーキングイベントがありますよね。そういうものをJRさんにさせるもよしですけど、ああいうイベントを、JR四日市駅起点のものといのものをもっともっと、例えば定期的に月1ぐらい——週1で人が集まるのか知らないですけど——でも、ウォーキングイベントってそこそこ集まっていただけのイベントなので、そういうものを行政として企画して、歩くルート、こんなんがありますよ、さらに、あそこにはこにゅうどうレンタサイクルもあるので、そんなようなものも混ぜながら寄り集まっていたくような、そんな工夫もありかなとか思うんですが、ちなみに、JRのウォーキングイベントに関しては、今年度は南四日市駅起点のはあるそうですけど、JR四日市駅はたしかないと思うので、その辺の売り込みといのものも必要かなとも思うんですが、いかがでしょうか。

○ 森商工農水部参事兼商工課長

それは南四日市駅の売り込みとい……。

○ 加納康樹委員

いやいや、JRの売り込みです。南四日市駅はことしは何かさわやかウォーキングとい、南四日市駅の起点があるんですよ。じゃなくて、やはり今この話をしてるので、

J R 四日市駅起点というものもやっていかなきゃいけないと思っているんですけど。

○ 森商工農水部参事兼商工課長

まずは、例えば4ページのほうに——残念ながら、昨年までの事業なんですが——秋のみなとフェスタという形で、五、六年ずっとやっておったと思うんですけども、まち歩きイベントを中心としたもので、J R 四日市駅、本町プラザ、なやプラザあたりから四日市港に向けてという形のイベントを行っておりました。それで、このときには近鉄のまち歩きイベントとバッティングすることがまあまああったんですが、それもうまく混在しながらやっておったという経緯がございまして、委員ご提案のように、すごくいい結果も出てきたので、本来は続けていきたいようなイベントなんですが、ちょっとことはやれないというようなことで報告を聞いておりますけれども、少しこのあたりは、私のほうでできるのかどうかということも含めて、全市的な一つの案として考えていきたいと思いません。

○ 加納康樹委員

そういうふうなイベントも、最低限単発ですけど、月1ぐらい、できたら週1ぐらいのイベントをしてあげるといふのも大事なのかなと思うので、ぜひぜひまたこんな点も検討してみてください。

以上です。

○ 石川善己委員長

他にございますか。よろしいでしょうか。ございませんか。

(なし)

○ 石川善己委員長

では、1点だけ。重々部局をまたいでおるといふのを承知で一言だけ。

羽津古新田の中途半端に虫食いで買収してある土地なんですけど、これ、全く方向性って今の時点でまだ見えていないということの理解でいいのかなという確認が一つあるんですけども。このまま置いておいたら、多分、永遠にこのまま残っていつてしまうんじゃ

ないかなと思ってまして、売るにしても、多分、このままじゃ売れないですよというところを思っていて、逆に何か使えるように補充をして、買い増しをして売却するなり、ここを何か市で活用できるような方向の考え方——それは部局が違うのかもわかりませんが——ある意味、商工農水部さんのほうで何か活用方法を考えていただいて、虫食いをどうにかする方向の検討というのができないのかなという思いを少し持ってまして、当初購入した時点というのは、たしか土地開発公社でやっていると思うんですけど、その辺って全く今何も方向性づけがされていないとは思っているんですが、その辺で少しでもお答えがいただけたらというのと、お答えがないにしろやっぱり部局間で共有をしていただいて、ここをどうしていくかという検討は少しずつしていただきたいなという思いがあるんですけど、どんなものでしょうか。

○ 須藤商工農水部長

土地開発公社での買収ということで、それも一旦とまっております。買い増ししていくということになると、またそれなりのかなりの決断も要りますし、また、土地開発公社等の活用ということになると、現在、健全化というようなところでなかなか難しい面もございます。過去の反省も踏まえて、きっちりと活用用途というものを立案した中で、新しくまた検討していくということになるのかなというふうに思っております。

現状では、アクセス——国道23号からあるいはJRということで囲まれておって——がそのままではなかなか活用しにくいというようなところもございます。そのようなことも含めて、どのような利用がいいのかというようなことをしっかりと固めた上での次のステップになるのかなというふうに思っております。その辺は各関係部局、政策推進部等も認識を持っておりますので、このまま塩漬けにしてずっと置いておくというようなことではないというふうに存じております。

以上でございます。

○ 石川善己委員長

ありがとうございます。

○ 小林博次委員

基本的な考え方が少し違うので。

J Rの高架化を断念したときに、あそこの用地を土地開発公社から市が買い戻すときに、三重橋垂坂線の用地として買収をするというでたらめな資料を出してきたけど、承認したわけや。

○ 石川善己委員長

三重橋垂坂線……。

○ 小林博次委員

そう。三重橋垂坂線、都市計画道路。だから、買い戻したから、10年以内に次の利用をきちっと提案してくるということだとまっておる。来年が9年目、再来年が10年目、だから、責任を持って出してこんとあかん。そうやって決まっておるんやで。それで買い戻したんやで、だから、その辺がちょっと。

○ 石川善己委員長

ありがとうございます。

答弁はできないですね。

そういったご意見もあって、済みません、私も経緯を把握をできていませんでしたのであれなんですけど、今のご意見も踏まえていただいて、羽津古新田の土地についてはしっかりと検討していただければと思っています。

(発言する者あり)

○ 石川善己委員長

決して買い増しせいと言っているわけでは私はないんですけども、このまま置いておくのでは意味がないので、何らかの方向で売るなら売ると。多分、売れないと思うんですけども……。

○ 小林博次委員

野球場にするとか、何かいい方法はありますか。

○ 石川善己委員長

というようなところで、いろいろとこのままにならないようにしていただきたいという思いで、ちょっと一言言わせていただきました。済みません。

その他、ご意見、質疑ございませんでしょうか。

○ 川村幸康委員

行政がやる活性化は幾つかあるけど、上手に成功してやっておるところの考え方はやっぱり、先行投資で、また後で税金で返してもらおうという考え方で投資はしておると思うので、何かしら民間業者の不公平感が出るような助け方をするとかいう考え方は余りうまくやっておるところはないのかなと思って。先に税金で払ってやっても、かせいでくれたら、また後で税金で返してもらえばいいわというぐらいでおるから、そこがにぎわえば、また波及効果で人が来たりなんかしてにぎわうのかなという。だから、一面だけ見て、例えば、民間事業がやることのお助けをするみたいな感じの活性化と思わんほうがええのかなと思っておるで、だから、税金を使うことによって、多少なりの不公平感というのはあるやろうけど、ただ、それをどう見るかということやろうし、ちょうど平成20年ぐらいの前ときも、中心商店街の活性化策で、毎年、特別委員会をこうやってしたときでも、例えば、くすの木パーキングの駐車場をどう見るかなんやわな。例えば、私みたいに郊外に店を持って、土地も安いから広い駐車場を持ってやる商売もあれば、この辺は足らんとかかなんかでわつつくったでな。逆の見方をすると、税金で駐車場まで整えてもらってという見方もあれば、いろんな見方があるわけやわな。だから、それはやっぱりきちっと、どう物を見るかによって変わるわけやで。

極端なことをいえば、そういう力がないと、商売も頑張らへんしな、民間事業もエネルギーには。だから、やっぱり行政お助けでやってくるのは大体うまくいかんで、どうやったら民間のエネルギーはそがずに、なおかつ、ある程度、最初の取っかかりだけつくるかという、その取っかかりが結構、四日市市の場合は民でやることを邪魔しておるみたいな雰囲気でおるで、そうではなくて、先行投資して、税金を後でまた返してもらったらそれでいいんやでというようなぐらいでいかんと、どんな活性化をしてもうまくいかなのかなという気がするで、だから、一番のかなめの商工農水部の人らの考え方がそっちを向いていかんと、言われることは多分わかると思うんやな、言っておることは。それはわかるだけではなくて、行動に移さんとあかんというところが商売は難しいわけやで、誰でも

大体安くてうまいものを売ればはやるに決まっておるのやさ。それをやるかやらんかだけなんやで、そこにはエネルギーが要るのやわ、えらいんやわ。毎日守りせなあかんし。客も守りせなあかんし。だから、その起爆剤だけ行政がつくって、あとはもう税金でまたあなたらも取っていったらいいわけやで、特に商工農水部の人らの考え方がそういうことになっていかんと、大分時代が変わってきたで、20年前とは。20年前は、何となく、全部器まで用意して、補助金を出したら、それで商工農水部の仕事やみたいなところがあったと思うんやけど、これからは逆で、やっぱり先に投資をしてやるというような考え方が出てこんと、それから、商工で人を集めてやるぐらいの気持ちでおらんとあかんのかなという気はするけどね。

だから、さっき加納さんが言っておった駅のウォーキング、私は忙しいで歩くというのは暇やなと思っておったけど、すごい人口がおるのやなと思っただけで、この間から。子供がこだまに乗ると言ったもんでこだまに乗ったら、物すごいリュックサックをしょった人らがどんどん乗っておるのな。見たら、米原か京都へ行くほうに乗ったんやけど、あの辺でみんなおりにいってしまうもんな。すごい量の人歩くんやで、これはばかにできやなと思っただけで、今のはやりがな。だから、よっぽど何か考えれば、そういうことはできるなという気がしたでさ。

自分がせんことは全然わからんだけど、見てみて初めて人を寄せられやなと思っただけで、あれぐらいね。だから、もう少し役所の中でも――須藤さんなんか、そんな歩かんやろう、車やろう、私らでも車ばっかで歩かんでわからんだけど、そういう人らは多いんやなと思っただけで――だから、一遍役所の中にそんな人らもおるやろうで、歩くのが好きな人や、駅から駅のイベントが好きな人も。それを使って投資をして回収するというようなやり方を少し早目に出していかなと、よそで成功しておるのはみんなそういう考え方に部長がなっておるわ。少々問題はありませんでしたかって聞いてやると、既存商店街とぶつかり合ったかと、いや、既存商店街にエネルギーをつけるためにも、税金で先行投資してあげて、後でまた返してもらえええという考え方でやらんと何もできませんわという人、部長らが多いで、そういうやり方をしてもらったらなというふうに思っただけで、終わります。

○ 須藤商工農水部長

昨年ぐらいから、中心市街地の活性化方策ということでいろんな議論をしてまいりました。その中で、行政のほうができるということは、やっぱりインフラをやるというような

ところが中心になってくるわけですが、その辺ではかなりヒントを得てきたのかなというふうに思っています。駅東、諏訪公園なんかについても、少し手を入れたら、随分と人寄りも違うやろうなとかというようにもかなりヒントとしてもらいました。図書館についても、先行投資して、周辺の活性化というようなことには効果もあるだろうというふうにも確信を持ってまいりました。これからその辺でやっていけることがかなり盛りだくさんになったきたなというふうに思っております。商工農水部だけで当然できることではありませんが、全庁的にそのような共通認識に立ってきておるというふうに認識しております。今後に向けて少し具体的に歩み出せるものかなというふうにも思っております。

以上でございます。

○ 川村幸康委員

要は、規制緩和をどれぐらいしてやるかということやわ、今まで縛っておったのを。

それと、もう一個要るのは、車社会をどう見るかやで、とめるところがなければ動かんというところもあるし、自転車か公共交通機関かといっても、なかなかバリアが高いで、そこらもちょっと考えなあかんということ、これは個人的な意見で、味ない話やったらごめんね。

今ここで説明してもらっておる人でも、今の市立図書館に行ったことがある人おるの。この間、事務局で聞いたら、学生時代とかいう人ばかりやったでさ。議員でもおらんのやわ、実はな、図書館とって。だから、起爆剤になると思込んでおるけど、実際に今の図書館、既存の図書館も行ってないんやわ。だから、行くかという話の世界もないと、つくったら終わりやとつまらん話なので、図書館をつくって、行ったことがあるのというところから始めやんと、役所がやると、どうしてもつくるだけで終わるで。民間人は、やっぱりつくってから採算が合わんとあかんわけやで、だから、そこらをよう考えて、図書館にしる何にしる、つくって終わりになると、無駄な投資になるという可能性もあるんやで、よっぽど考えな、場所も駐車場も含めてきちっと。これはもうちょっと味ない話やけど、そう思う。

だから、規制緩和したってほしいなと私はずっと思っておる。20年前に言ったのは、今はキャバクラになってしまったけど白揚の前あたりは一本道路に車が通れるようにしたらどうやと言っておったんやさ、あそこの中くらいは。昔の諏訪交番の前からあの道路はな。

中心市街地はちょっと人をおろすところがないもんで。だから、市役所の人は駅から通るやろうけど、あるいはサンシの前を通るやろうけど、でも、車でちょっと来て、四日市で買い物をしておろして行って、また迎えに来てというのは高架下しかないし、だから、できれば、私はキタオカやあのあたりのところは、一時的でもええで、車が駐停車できて、おりるようにしたらって20年前ぐらいから言っておるのやけど、聞く耳を持ってもらえやん中でずっとすたびれてきたで、もう一遍きちっと規制緩和を。今規制してあるのを絶対なんやと思わんと、一遍あそこを——便利ええやろう、須藤さんでもあそこに車でふっとおろしてもらえたらと思うんやわ、そういうことを——少し規制緩和を考えてやってほしいな、活性化には。

以上です。

○ 石川善己委員長

答弁はよろしいですか。

○ 川村幸康委員

いいです。

○ 石川善己委員長

ありがとうございます。

じゃ、その他、ご意見、ご質疑ございませんでしょうか。よろしいですか。

(なし)

○ 石川善己委員長

では、他に質疑もないようですので、本件についてはこの程度とさせていただきたいと思えます。

お疲れさまでした。理事者の皆さん、ご退席ください。

委員の皆様、もう少しだけおつき合いをください。

2点目になります。6月定例会議会の議会報告会が出された市民意見をまとめたものを資料としてタブレットのほうに送らせていただいております。

議会報告会に出された12件の市民意見について、正副で以下のように整理をさせていただきます。1から12まで、全て3番、その他の意見として整理をさせていただきました。中で、9から11については都市・環境常任委員会、12につきましては総務常任委員会に意見を伝えるものとして整理をしております。

このような形の整理でさせていただいてよろしいでしょうか。資料を見ていただいてご意見がなければ、そうさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

(異議なし)

○ 石川善己委員長

ありがとうございます。

それでは、この内容で議会運営委員会のほうに報告をさせていただきたいと思います。

○ 川村幸康委員

ちなみに、このときって何分に終わりましたか。

○ 谷口周司委員

結構時間ぎりぎりまで……。

○ 石川善己委員長

結構時間オーバーするぐらいまでいきました。

○ 川村幸康委員

8時半ぐらいやったか。

○ 石川善己委員長

いや、もうちょっといっていたと思います。

○ 川村幸康委員

他の委員会で、8時45分に行ったら、やっていなかったという声もあって、ただ、難し

いなと思っているんです。ないのに45分まで引っ張るというのもナンセンスやけど、書いていないもので、8時45分までのはずやろうと。だから、今度、議運かどこかで提案しようと思うのは、時間の都合上によってはというのは書いておくとあかんのかなと。

○ 小林博次委員

それは書いておいたほうがいい。

(発言する者あり)

○ 石川善己委員長

それでは、このあとは競輪場の視察となります。現地に5時30までに――タブレットに地図を送らせてもらっておりますので――お越しいただくか、車の手配を事前に申し込んでいただいているのは副委員長と中村委員だと思いますので、5時に出発しますので地下正面玄関で車のほうに乗りこんでいただきたいと思います。あと、ご欠席の方は2名とお伺いしております。

それでは、お疲れ様でした。また、競輪場のほう、よろしく申し上げます。

16：20閉議